

## ○第2回遠野市部活動検討委員会議事録

### 3 議事

#### (1) 報告に係る質疑

##### 1 質疑

①資料No.1のP8にあるスタートコーチ制度とはどのような制度か(新井野邦夫委員)。

⇒ これまでスポーツ少年団では、指導者の資質向上のため、認定指導員という制度があり、一度研修を受け登録をするとその後は更新を受けることなく指導をすることができていた。

日本スポーツ少年団では令和2年からJSP0公認スポーツ指導者制度に基づき、新たに「スタートコーチ」の養成を開始した。この資格を取得すると、スポーツ少年団や、総合型地域スポーツクラブ、学校部活動においてスポーツ少年団の理念を学んだ指導者として登録し指導をすることができる。ただし指導を継続するには3年から4年に一度、講習会を受講して更新をする必要があり、その際には登録料も発生する。

競技力向上のためのものではなく、スポーツ少年団等を指導する上で指導者が最低限身に付けておくべき内容を学び指導にあたる。具体的な登録料は把握していないが今までかからなかった費用がスタートコーチ制度の登録や更新の際には負担が生じることとなる。

当然、体罰やハラスメントがあった場合の対応も出てくると思われる(菊池長悦委員)。

②資料No.1のP14に運営団体の確保という記述があるが、運営団体になるためにはどのような条件が必要か。今どのように考えているのか(多田宣史委員)。

例えば、岩手県中体連から発出された別添資料に3月上旬から中旬にかけて地域スポーツ団体等の登録受付という記述があるが、これは単純に中総体に出るための条件を満たしていることを審査するというのか、それともこの審査に合格すれば地域部活動として認められるということになるのか。

⇒ この資料は岩手県中体連からの情報提供の資料。2月24日に県中体連の評議員会が開催されそこで協議、決定がされ動き出す形となるが、この資料は2月20日付けで中学校1・2年生の保護者に配布した。内容は令和5年度から地域のスポーツ団体等が岩手県の中体連の大会に参加できるというお知らせの通知となっており、各学校に通知され、各スポーツ団体にも発出される。スケジュールについては、2月24日の県中体連の評議員会に承認された段階で28日の正午以降に関連資料が県中体連のHPで公表される。

スポーツ団体は県中体連が示している基準を満たしているか確認しながら登録申請を行い、県中体連では登録が可能かという所を審査する。登録が認められれば大会に参加も可能となり大会関連の会議にも参加していただきながら運営の協力もしていただく。各競技の参加登録には、指導者の資格の有無等それぞれ詳細な規定が定められている。

生徒の中総体参加までの手続きについては、資料の裏面のとおり5つの区分で示されている。区分Aが学校部活動で参加。区分Bは学校部活動と地域クラブに所属しているが学校部活動で参加する場合。区分Cは学校部活動と地域クラブに所属しているが地域クラブで大会に参加する場合。区分Dは、学校部活動には所属していないが地域クラブで大会に参加する場合。区分Eは大会に参加しない場合となっている。

この区分に応じ令和5年4月以降、各中学校において、夏の全国中体連までの大会を一区切りとして、どういう形で大会に参加するか中総体の参加区分登録証を各生徒から取りまとめることとなる。28日に公表される規定にそって県内各地で学校及びスポーツ団体が動き出すこととなると思われる。

また、市をまたがっての大会参加はできないとか、一団体一つの大会のみの参加とか、種目によって詳細に参加資格が示される等、県中体連では様々なことを想定して令和5年4月実施に向け準備している段階である(堀村克利委員)。

③その事項に関わって、地域クラブにおいては、自治体が認めた団体は出場できるという種目もあるようだが、自治体である程度、地域部活動を名乗っていいですよというような条件付けが必要だと思われる。

前回検討委員会の資料で示されたスケジュールでは、令和6年の上半期からモデル実践の事業を始めるという説明であったが、それを前倒して実際に動いている遠野ランニングクラブや水泳のベレガに関してはもう走り出しているので、モデルケースとして認定してもらい実際に今年一年間運営してみてどのような形になるのかなというところを見ていただくのも一つの手法かなと思う。18日に矢巾町で地域移行の研修会があったが、大船渡市では全部の中学校に無い特設陸上部を設置し、4校合同で実施している事例の説明があった。それと同じような形で陸上と水泳もモデル部活動として認定していただきたい。県中体連の大会においても令和5年から地域クラブの参加も認められるので大会にも参加しやすくなるのかなと思われる（多田宣史委員）。

⇒ モデル部活動の実践については、この後の協議事項において、各委員からご意見をいただき協議することとしたい（事務局：本宿課長補佐）。

## （２）部活動の地域移行の受け皿について意見交換（各委員からの意見）

### 1 遠野市PTA連合会 会長 多田 宣史 委員

受け皿団体へのアンケートですが、この結果を見る限り地域移行というのが、受け皿団体にいまいち正確に伝わっていないのではないかと懸念がある。その理由として資料No.3問4の「考えていない」と回答した団体についての理由の所、例えば「団体の人数不足、高齢化」と回答があるが、だからこそ若い人に参加してもらって活動を活性化するという考え方もあると思う。教師の負担軽減とか子供たちの選択肢を増やすとかという考え方もあると思うが、もう一つは、地域スポーツの活性化という所も視野に入っていると思うので、こういった意見が出てくるということは、地域移行がきちんと理解されていないのかなと感じる。

また、回答には「活動時間や内容が部活動と合わない」という意見があったが、部活動という言葉に捉われすぎているように感じる。eスポーツとかいろいろな活動が想定される中で選択肢を増やしていくことが大切であり、子どもたちが選択するかどうかは二の次であって。もちろん週一の活動も十分、地域活動の受け皿として考えられると思う。資料No.3の問6の「現在、指導している種目」についての所、前回の検討委員会で出された囲碁とか将棋とかの種目が無い状況であるが、教育文化振興財団で囲碁将棋クラブを実施していると思うので、財団にもこのアンケートを実施していれば指導している種目については、囲碁・将棋の回答がきていたと思う。

一つ提言したいのが受け皿団体の研修会の実施について。地域移行とはこういうものだということや遠野市内のありとあらゆる団体を集めて研修を開催しないと正確な所がでてこないのかなと思う。実際に受け皿団体として考えている団体についても研修会を受けて考えが違ってくるかもしれない。まずは正確な情報を受け皿団体に提供するという所が必要ではないかなと思う。

⇒ 資料No.3のP5の意見にも「受け皿となり得る団体の認識をある程度統一するための勉強会開催を希望する」という意見があったので、受け皿団体を対象とした研修会の開催を今後、検討していきたい（事務局：本宿課長補佐）。

### 2 遠野市校長会 代表 佐々木 誠 委員

幅広く色々な事を同時に進めていくのは、やはり非常に難しいことだと改めて感じた。そういう状況の中、モデル的なものを一つなり二つなり実施しながら、幅を広げていくという考え方の方がいいのかなと個人的に感じた。

受け皿を多く作りすぎても子どもたちの参加が分散してしまい大会にも出場できないとか、そういうことになってしまうので、これを進めていくのは大変なことだけれども、まず実施できることから考えた方が成果も課題も見つけやすいのかなと感じた。

私は遠野東中学校の校長ですが、今ある部活動も部員数が少なくなって今度4月に新入生が入学してきた時に部員数が確保できないと大会に出場できないとか、学校内部でもそのような状況があ

り、学校部活動運営も苦しくなっている。運動部離れということも見受けられているので、なんとか子どもたちが力を発揮できるような環境が徐々にでも整えていければと思っている。

先ほど、教職員の兼職兼業の話も出ており、通知も既に発出されている。そういった部分もモデルを作って進めないと、身勝手な意見や考え方が出てくると取りまとめが苦しくなるなど感じた。

### 3 岩手県教職員組合花北遠野支部 書記次長 藤澤 俊介 委員

先ほど、佐々木誠校長先生がおっしゃったように、確かに選択肢が増えすぎると生徒が分散する可能性は高くなると思う。ところが、逆に希望するクラブがなく入らないという選択肢を大義名分的に使う子どももでてくるのかなと思う。方針の中で関係者に周知とあるが、これは生徒にも周知する必要があると思われる。選択できる種目には、限界があるという話をしつつも、地域として幅広く選択肢を与え、みんなが色々な経験を通して学んでほしいということなんだよということを周知したり、指導して、その中で選択して活動していくというような土壌を作っていかなければと思う。

結局、選択肢がないから入らないという大義名分が立つようになってしまう。今の時代は例えば自分のやりたいことを YouTube で見続けられる時代になってしまった。受け皿を増やしていくという基本的な趣旨は子どもたちに色々な経験をさせたいということだと思うので、できるだけ様々な受け皿があって色々な経験をしてほしいから地域の方や先生方で、このような活動をする機会を作ったという土壌を作っていくことも加味していかないと、せっかく苦勞して受け皿を作ったのに入らないという可能性もあると思う。

そこで兼部という考え方も必要なのかなと思う。例えば夏はスポーツをメインにやって、秋になったら音楽をやってみたいとか。兼部も可能という考え方も入れていくと、分母も増えますし季節によってスポーツを変えると実は指導者の方も指導の時期が分散できるので、確保が容易になるのではないかと思われる。

### 4 スポーツ少年団指導者協議会 代表 菊池 長悦 委員

関連ですが総合型地域スポーツクラブ NPO 法人オヴェンセの小中学生を対象とし、陸上や水泳、フットサル、ミニバス或いはスポーツではないが、発明クラブとかの活動を実施している。関わっている指導者では季節毎に様々な種目を横断的に体験させながら、最終的には希望する種目に取り組んでほしいと、それぞれ独立して活動しながら連携をしている所である。

オヴェンセでも体協の中に関わりを持ったりしながら、スポーツもカルチャーも取り組み、団体としての地位を確立しながら一緒になって実施していくことが必要だなと感じている。

### 5 遠野市芸術文化協会 会長 新田 光志 委員

文化芸術団体の現状をお話すると、文化芸術はかなりジャンルが広いというのが現状である。伝統芸能から、和、洋、音楽というようにジャンルが広く、私が会長をしている遠野市芸術文化協会も45の団体で構成され、それも多岐に渡って文化芸術を学んでいる団体の融合体である。

スポーツと違って協会といっても例えば「こうしてください」「ああしてください」とか、方針としてこうなりますから協会が受け皿となりますと言にくい環境にある。そういう状況をふまえると文化芸術に関しては、市生涯学習スポーツ課等とタイアップをして、お互い出来るところと出来ないところを整理して、子どもたちを対象に出来ることを示すための事前の協議が必要だと思っている。

これに関してはやりたくない訳ではなくて、協会としても積極的に関わっていきたいと思いますし、そのために子どもたちに色々な選択肢を与えるための体制づくりが受け皿としての前段階なのかなと考えている。

また、私の関わっているところで出来る範囲から実施すると考えると、遠野物語ファンタジーでは演劇も吹奏楽も合唱もやっている。できるところからと考えると色々な可能性が広がっているということも思っている。

## 6 遠野市体育協会 会長 熊谷 義弘 委員

地域移行するという話になった途端に、小中学生を対象とした一括指導に向け既に動いている団体もあるが、原点に帰り、まず目標としているのが休日の部活動の地域移行であり、そこからやっていくというのが前提だと思う。

さっき中体連の堀村校長先生からお話のあったとおり、中体連も種目ごとに参加基準が異なり、いろいろな部署が手探りでやっている所で、もっと絞ってやらないと、やりたい人が良いようにイメージしてやっていっても理想ばかりになってしまうと感じる。

他地域も出来ていないので、じっくり周りを見て先進地域の例を参考にしながら、検討していった方が良いのではないかなと思う。

受け皿に関してはあまり多くない方が良い、できる所からやるべきだと思う。将来的には色々な受け皿があった方が良いという意見がありますが、まずは休日の地域移行を目標に向け進めていき課題をひとつひとつ整理していかなければならないと思う。

## 7 遠野市教育委員会事務局 教育長 佐々木 一人 委員

みなさんからご意見いただいたが出来そうな団体から、実践的に地域移行をやっていくという方向性で進めさせていただく。まずは、実践的にやってみて成果や課題を次の展開に活かしていければと思う。

子どもたちにスポーツなり文化活動を経験、体験させ、将来的につながる活動にしてあげたいというのが大きな狙いであると思われるので、私たちが出来ることを子どもたちに実施していきたいなと思っている。

また、受け皿になり得るような団体については、部活動の地域移行の理解を深める機会を今後作っていききたい。